

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 3 日現在

機関番号：47501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380916

研究課題名(和文) 幼児の仲間関係におけるルール共有過程の発達

研究課題名(英文) The Development of the sharing rules process in preschool children's peer relationship

研究代表者

藤田 文(Fujita, Aya)

大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：50300489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は幼児の仲間関係における交代制ルールと情動反応の関連を検討することを目的とした。4歳児と5歳児を対象に、三人組でのゲーム遊び場面を録画した。分析の結果、交代回数が多いグループの方が楽しさの情動反応が多いことが一部のゲームで示され、交代制ルールの共有と楽しさの情動反応の関連が部分的に示された。また交代制ルールの崩壊過程の事例を検討した結果、男児は力関係の中で、女児は他者との関わりの中でルールが崩壊するという性差が示された。幼児の仲間関係に交代制ルールの規準と情動の共有が重要であり、その指導には性別を考慮する必要があると示唆され、保育実践に応用可能な意義のある研究結果が得られた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to investigate the relations between the criterion of sharing the turn-taking rules and the emotional reaction. The subjects were 96 four years-old children and 93 five years-old children. They were asked to play three kinds of games in triads. The result showed that the groups took turns more reacted more emotionally than those took turns less. And the sex difference of the process of the rule collapse was found in the characteristic cases. These results suggested that it was important to share the turn taking rules and emotional reaction for preschool children's peer relationship, and considering the sex difference was important for the preschooler's education.

研究分野：発達心理学

キーワード：仲間関係 ルールの共有 幼児期

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、子どもの仲間関係における交代制ルールの共有過程の発達メカニズムを解明することである。そのために、子どもの三者関係での交代制ルールを共有過程を、行動コーディングシステムを用いて分析し、遊具と他者へどのように注意を向けているのか、自己と他者で情動的な楽しさの共有がどのように出現しているのかについて、その年齢差と性差を詳細に検討する。

遊び場面における仲間との関係調整の能力は子どもの社会性の発達にとって重要である。幼児期のこの発達がうまくいかないと、青年期の不適応のリスクになることが示されている(Rubinら, 1998; Coplanら, 2001; Asendorpfら, 2008)。従って、現在問題となっている不登校や引きこもりなどの青年期の社会的不適応の予防のためにも、幼児期からの仲間との関係調整の発達を明らかにして、社会性の促進に示唆を与える研究が必要である。

藤本・大坊(2007)のスキルのモデルにおいて、関係調整には三側面あることが示された。従来の遊びの研究では、この関係調整の中の、いざこざ場面の葛藤への対処という取られた遊具を取り返す一時的な関係調整しか取り扱われてこなかった。しかし、関係調整には遊びに他者を取り込む関係重視や継続的に遊びを展開する関係維持の側面があり、それらを含めて研究する必要がある。

筆者の従来の研究で、交代制ルールの産出が遊びに他者を取り込み、他者と遊具を継続的に共有する仲間との関係調整に重要であることが示された。従って、本研究でも引き続き交代制ルールに注目しその共有過程から仲間との関係調整の発達を明らかにする。

2. 研究の目的

筆者の従来の研究で、交代制ルールの産出は4歳児から5歳児にかけて、規準が明確化し、他者配慮的なルールの主導ができるように発達することが明らかになった。特に5歳女児で他者を配慮した関係調整の発達が早いことも示された。また、規準が明確な交代制ルールが産出された場合にいざこざが少ないことも明らかになった。従って、交代制ルールの産出が他者を遊びに取り込み関係

調整の足場かけとなっていることが示された。

しかし、従来の研究では、交代制ルールが明確であることと情動的にゲームを楽しむこととの関連が明らかにされていなかった。実際、交代制ルールが不安定で不公平な交代になっていても、ゲームが盛り上がり楽しんで遊んでいる場面も見られた。従って、本研究では、ルールの規準が明確であることだけが関係調整にとって重要なのかどうかに関して、従来取り上げられてこなかった情動的な側面も含めて検討していくことを目的とする。

幼児の三人組でのゲーム遊び場面のデータを利用し、笑い声や表情を中心に分析する。ゲーム遊び場面における情動的楽しさの表出や共有の年齢差と性差を明らかにすることを第1の目的とする。特に、従来は分析対象としていなかった全く交代制ルールを産出しなかったグループについても分析対象とし、関係調整の未熟さについて明らかにしていく。

研究期間内で、1年目は、魚釣りゲーム場面に重点を置き、情動的楽しさについて詳細に分析を行う。2年目は、アイスクリームゲームやワニゲームといった情動反応が生じやすいゲームの種類を増やして、同様の分析を詳細に行う。3年目は、交代制ルールの産出が見られない組や交代の不公平が目立った組を中心に分析を行い、交代制ルールの崩壊過程を明らかにする。

3. 研究の方法

4歳児96名と5歳児93名を対象とした。まず、対象児を同性同年齢の三人組にした。教師と相談し、同クラスの親密な子ども同士を組み合わせた。

保育園・幼稚園の一室で、三人組で一緒に魚釣りゲームとワニゲームとアイスクリームゲームを、各グループランダム順序で一つのゲームにつき5分間ずつ行ってもらった。

魚釣りゲームは、ゲーム盤上の口を開ける魚に釣り竿をひっかけて吊り上げるもので、釣り竿は三人に1本しか用意されておらず、釣る順番を子どもたちに決めてもらう。

ワニゲームは、ある歯を押すとワニの口が閉まるようになっており、ワニの口が閉まって棒が挟まれた人が負けになるゲームである。歯を押す棒は三人に1本しか用意されておらず、棒の使用の順番を子どもたちで決めてもらう。

アイスクリームゲームは、ディッシャーで

アイスクリームをはさんで上に積み重ねていくもので、アイスクリームを倒した人が負けになるゲームである。ディッシャーは三人に1本しか用意されておらず、ディッシャーの使用の順番を子どもたちに決めてもらう。

ワニとアイスクリームゲームでは、本来は1つ歯を押ししたり1個アイス積み重ねて交代し、誰が噛まれたり倒れたりするかを競うゲームであるが、幼児では、一人の子どもが噛まれるまで歯を押ししたり、倒れるまで積み重ね続けるなど幼児特有の交代が観察されやすいゲームである。つまり、他者をどの程度取り込んでゲームを行うかを取り出しやすいゲームである。

この遊びの様子はビデオ録画された。上記の遊具の交代制ルールについて分析を行った。

4. 研究成果

幼児が三人組で3種類のゲーム遊びをしている場面のビデオでの行動記録を、行動コーディング解析ソフトを用いて分析した。行動コーディングシステムと適応のよいパソコンを購入し、ソフトの導入を実施した。ビデオデータを保存記録して、基本ユニットの始動を行った。

従来の研究で、4歳児よりも5歳児の方が交代行動の規準が明確で、関係調整が上手くできるようになることが示されている。しかし、分析数が少なかった。本研究では、分析数を増やすことができたため、まず、これまでの分析に加えて4歳児と5歳児の交代行動の特徴を再度検討し直した。

その結果、これまでの研究と同様に交代回数が4歳児は5歳児よりも少ないことと、4歳児の交代の規準が全部交代や好きなだけ交代が多いことから、より強固に4歳児は交代に関する明確な規準がないことや他者とゲームを共有していないことが示された。一方5歳児は、交代回数が多いことや、1回交代が多く、好きなだけ交代が少ないことから、交代に関する規準が明確になることや、他者とゲームを共有していることが示された。

このことから、5歳児では1行為を規準とした交代制ルールが多いが、4歳児では1ゲームをやり終える交代制ルールが多いことが示された。また、4歳児は相手の交代要求に応じないことが多かった。4歳児から5歳児にかけて、三人で1つのゲームを共有するようになり、他者へ配慮できるようになることが多様なゲームにおいても示唆された。4歳児から5歳児にかけて交代行動が著しく発達することがより明確に示された。

次に、交代制ルールの規準が明確で交代制ルールがうまく機能していることと情動的にゲームを楽しむこととの関連を分析した。

ビデオ録画した。楽しさの情動共有行動とみなされる笑いや拍手やほめ言葉などの回数を分析した。その結果、魚釣りゲームでは4歳児の方が5歳児よりも、また他のゲームでは男児の方が女児よりも楽しさの情動共有行動が多いことが示された。

また、交代制ルールと楽しさの情動反応の関連について検討した。その結果、魚釣りとアイスゲームでは関連は見られず、ワニゲームにおいてのみ、交代回数が多いグループの方が少ないグループよりも楽しさの情動反応が多いことが明らかになった(表1~3参照)。

従って、ゲームを三人で共有して交代がスムーズに行なわれていることが楽しさの情動反応と関連していることが部分的ではあるが示されたといえる。

さらに、男児・女児の性差、特に交代制ルールの崩壊過程を取り出して男女で比較した。男女の交代行動の違いを明らかにするために、特徴的な事例を抽出し分析した。ルール崩壊過程を示す事例はそれほど多くはないが、ゲームの流れを分析することができた。

分析の結果、男児のグループでは途中で1回も順番が回ってこない子どもが出てきて、一人の子どもがルール違反をするとその子どもの主張と他の子どもの主張がぶつかり合うものの、意見の強い子どもの独断でルールが崩壊していくことが示された。つまり、男児のルール崩壊過程は1人の子どものルールの変更から崩壊がはじまり、それに周りの子どもは対抗しようとするが、主張の強い子どもに従わされて生じることが示された。

一方女児のグループでは、途中で1回も順番が回ってこない子どもはほとんど見られなかった。一人の子どもがルール違反をすると、他の子どもが模倣をしてグループ全体でルールが崩壊していくことが示された。女児のルールの崩壊過程は1人の子どものルールの変更により周りの子どもが同調して生じるものだということが示された。

このことより、ルール崩壊過程には性差が見られることが明らかになった。男児は独立した中でルールが崩壊し、力関係が影響するが、女児は他者との関わりの中でルールが崩壊するという違いが示された。

崩壊過程がみられるグループの子どもの視線や姿勢の向きなどを、行動コーディングシステムを利用して分析し、交代制ルールがうまくいかない要因を見出そうとした。しかし、明確な結果を示すことはできなかった。今後、手の動きなども要因に取り入れてさらに分析を重ね、交代制ルールの成立に関わる要因を検討していくことが課題である。

以上の結果をまとめると、幼児の仲間関係に交代制ルールの共有が重要であり、その指導には性別を考慮する必要があることが示

唆され、保育実践に応用可能な意義のある研究結果が得られた。

表1 魚釣りゲームでの
交代回数別情動反応回数

	交代少群	交代多群
4歳男児	14.8	11.8
4歳女児	9.6	10.0

表2 アイスゲームでの
交代回数別情動反応回数

	交代少群	交代多群
4歳男児	12.3	17.5
4歳女児	4.0	13.8

表3 ワニゲームでの
交代回数別情動反応回数

	交代少群	交代多群
4歳男児	7.0	22.4
4歳女児	4.4	9.6

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

藤田 文 2015 児童期の自由遊び場面におけるいざござ 大分県立芸術文化短期大学研究紀要第52巻 137-148.

藤田 文 2016 魚釣りゲーム場面における幼児の三者関係の交代行動 月齢による相互交渉の違い 大分県立芸術文化短期大学研究紀要第53巻 59-67.

藤田 文 2016 幼児の相互作用のきっかけ 仲間入りと仲間入れに注目してー大分県立芸術文化短期大学研究紀要第53巻 45-58.

〔学会発表〕(計8件)

藤田 文 2014 遊び場面における幼児の仲間との関係調整の発達 日本心理学会第7回大会 同志社大学

藤田 文 2014 乳幼児との仲間関係と社会性の発達 玉川大学脳科学研究所赤ちゃんフォーラム 玉川大学

藤田 文 2015 幼児期のゲーム遊び場面

における情動共有の発達 日本発達心理学会第27回大会 東京大学

藤田 文 2015 幼児の仲間との相互作用のきっかけ 日本教育心理学会第57回総会 新潟コンベンションセンター

藤田 文 2015 幼児のゲーム遊び場面における交代行動と情動共有の関連 九州心理学会第76回大会 大分県立芸術文化短期大学

Fujita Aya 2016 Turn-taking behavior in triads of preschool children playing three types of game. The 31st International Congress of Psychology, p145. 横浜国際会議場

藤田 文 2016 幼児のゲーム遊び場面におけるルール崩壊過程の性差 日本発達心理学会第28回大会、広島国際会議場

藤田 文 2017(発表予定) 子どもの遊びにおけるルールの産出 日本心理学会第81回大会 久留米シティプラザ

〔図書〕(計2件)

藤田 文 2015 遊び場面における幼児の仲間との関係調整の発達：交代制ルールの産出とその主導者を中心に 風間書房

藤田 文 2017(印刷中) 発達と老いの心理学 サイエンス社

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者 藤田 文 (FUJITA, Aya)
大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・
教授

研究者番号：5 0 3 0 0 4 8 9

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：